

スーパーグローバルコース実施運営協議会  
企画運営幹事会（第1回）議事メモ（案）

日 時：平成28年6月10日（金）10時00分～12時00分  
場 所：事務本部棟 1階 ミーティングルーム

議 事

1. スーパーグローバル創成支援事業にかかる今後の課題整理について

【資料2・資料3・資料4・資料5】

（議長）平成29年度に予定されている本事業の中間評価は、資料2の「構想調書」において取り組むこととしていた各種事項が着実に実行されているかが問われるため、まずは、委員の先生方に本調書に何が書かれていて、何が課題となっているかについて共通の認識を持っていただきたい。

資料3「構想調書課題整理一覧」は、「構想調書」に示されている取組について、その内容を実施主体別に個別に分けたものであり、本日は資料3に沿って、赤字及び黄色の網掛け部分を検討していく。黒字部分については、事務的に別途打合せのうえ、対応していきたい。

なお、資料3で赤い「★」がついている部分が、各分野において今後ご検討いただきたい部分であり、次回（9月に予定）の本幹事会にて進捗状況を確認させていただきたいので、ご準備願いたい。

以下、質問・議論のあった事項（質問→回答）

◆通し番号①－2「海外トップレベル大学との共同実施科目」の設定について

（社会健康）社会健康医学系ではダブルディグリープログラムにおいて連携大学と単位互換を行っているが、それは共同実施科目に入るか。

→共同実施科目の定義②に該当する。

（数学）数学系においては、「連携大学」を特定の少数の大学に絞っておらず組織単位というより教員個人単位での連携であり、したがって様々な大学から教員を招へいして講義等を行っているが、それは定義の③に該当すると考えてよいのか。

→説明の仕方次第、というところである。招へいしている先生の所属機関と何らかのやり取りをして認知していただいたり、協定等を結ぶなど、可能な限りオーソライズ、組織単位の連携に上げていく努力はしていただければと思う。構想調書の記載の範囲で説明できるように、という観点でお考えいただきたい。

◆通し番号①－3「国際共同学位プログラムジョイント／ダブルディグリープログラム」の開設について

(人社) 経済学研究科で考えている、共同学位ではないが JD を模したカリキュラムによって共同でサーティフィケートを発行するという形は実績になるか。

→共同学位以外のプラスアルファの取組として評価の場で説明できるかと思う。

◆通し番号①-6 「他専攻・他研究科への開放、副専攻履修」について

(数学) 数学系では、他研究科・他専攻の学生が履修するのは構わないが、内容的にかなり数学に特化しているため、あまり他研究科・他専攻向きではないと思われる。他研究科・他専攻向きの科目を用意すべきなのか？

→分野によって、かなり専門的なものもあれば、他研究科・他専攻でも取りやすいものもあるかと思うが、まずは該当する科目をリストアップし、他研究科・他専攻の学生に対して可視化することが第1段階である。ひとまず中間評価までに「副専攻履修を認めて、開放」という状態になっていることを目指し、その内容に関してはそれ以降に検討してもよいのではないか。

(人社) 人社系では経済学研究科の一部の科目を文学研究科のシラバスに乗せているが、「副専攻」と明記はしていない。

→「副専攻」は学生が所属する側の研究科で設定しないといけないので、大学院全体の課題である。現状ははっきりと副専攻を制度化しているのは総合人間学部くらいである。学生個人単位で、これらの科目を受講したら(副専攻履修として)認定する等、各研究科に依頼するなどの方策が考えられる。あるいは副専攻という言葉を使用していなくとも、シラバスに記載されているということで実質的に同じようなものと説明することもできると思われる。

(医学) 研究科横断型教育プログラムのしくみと連携させることはできるか？

→研究科横断型教育プログラムのカテゴリの中にスーパーグローバルという括りを作って、可視化するというのは良いアイデアである。

現在、研究科横断型教育プログラムのしくみを見直そうとしているが、ひとまず来年度の研究科横断型教育プログラム科目にスーパーグローバルの括りを設ける方向性で検討をしたい。いずれにしても該当する科目の一覧を出していただくようお願いしたい。

◆通し番号①-7 学部生に対するチャレンジコース科目群の設定について

(議長) ①-6の作業にもう1視点加えて、学部向きにもなる科目、あるいは学部生向けの独自科目等をリスト化し、「学部用」として、研究科横断型教育プログラムとは違った見せ方で可視化することが必要。

(人社、社会健康) 文学研究科では、院生だけでは受講生が少ないため、英語科目を学部生にも開放している。(ただし選抜はしていない。) 社会健康医学系でも学部生が院向けの授業を受講している。

→学部生に対してオープンにしていれば、チャレンジ科目として考えていただいて結構であ

る。

(数学) 数学系の学部生向けセミナーは単位認定していないが、それでもよいか？  
→調書上、単位に関して明記はされていないので、単位認定は必須ではないと考えられる。

◆通し番号①-10 MOOCの作成について

(数学) 昨年度のを改良、再配信することを予定している。  
(化学) 新規作成+昨年度のを再配信  
(医学) 昨年作成したMOOCの一部を将来的にジョイントディグリー用の講義の一部として継続使用することを検討している。  
(人社) 新規1科目を検討  
(社会健康) 一部OCWに掲載している講義がある。  
(環境学系) MOOCは課題と考えているが、目下ではVCSによる遠隔講義を進めようとしている。

◆通し番号①-15 産業界との連携、中長期インターンシップについて

(議長) 「中長期研究人材交流システム構築事業」はインターン先として国内が主に想定されているのでこの趣旨とは少し異なる。どうやって推進していくか考えていく必要がある。

(化学) 海外の企業/大学はどちらでもよいのか？

→どちらでもよいと考えられる。

(議長) 全学でのサポート等についてアイデアがあれば是非いただきたいが、まずは各ユニット等において構想調書の記載を念頭に置いて取組を考えていただきたい。

◆通し番号①-17 事業期間終了後の事業展開(共同研究)

(医学) 博士課程の教育は研究と切り離せないにもかかわらず、文科省とその面での認識に齟齬があるように思われる。

(人社) 調書の65ページに、中間評価の時点で「財政期間終了後の事業計画」を書くようにとあるので、今から考えていく必要がある。

◆通し番号②-9 外国語による授業科目の拡充(10単位以上の英語科目)について

(人社) 経済学研究科にはすでに10単位以上ある。経済学部の「グローバルコース」は一時ストップしており、早急に別途考える必要がある。文学研究科はCATSで既に10単位以上ある。

(数学) 10単位には若干届いていない。

(化学) 10単位は既にある。

(医学) 博士課程なので修士とは状況が異なるが、「大学院教育コース」を英語で行っており、各研究室で講義・演習・実験実習を英語で行っているためすべて英語である。

◆通し番号②-10 外国語のみで卒業できるコースの数等(スーパーグローバルコースの設置)について

(議長) ②-9は科目数という観点で、ここでは「コース」という形で見せることができるかどうかという点がポイントとなる。

(数学) スーパーグローバルコースを英語のみで卒業できるコースに数えることは構わないが、海外大学から学生を一時的に受け入れて研究指導等を行った場合、その学生が母校の学位を取るかどうかという点については当方の関与しない部分であり修了者数等の実績に数えにくいがどうか。

→ここはあくまで「京都大学の学位を出す」ということが前提となるため実績等は京大の学位を取得した人のみが対象となる。一方で、海外大学から学生を受け入れて研究指導を行ったような場合についても、プラスアルファのこととして記載できるかと思う。

◆通し番号②-19 渡日前入試・入学許可の実施等

(医学) 過去の事例等をもとに、パッケージとしてやり方を示していただければ部局としてはやりやすい。

◆通し番号②-24 外国語による情報発信等

(議長) 情報発信という面において、レベルの高い学生を取るための方策についても各ユニット等でご検討をいただきたい。

(議長) 後日、検討事項にかかる調査票を送付させていただくのでご回答をお願いしたい。  
次回は9月の開催を予定している。

## 報 告

### 1. 各ユニット等からの報告について

(数学系) Global Math Network への参画検討について【資料6】

6 大学間で授業料不徴収の取り決めの下、学生を交換し合うネットワーク。

(人社系) 農学研究科-ゲッティンゲン大学学生交流協定

ワークショップ、集中講義等の開催について【資料7】

(環境学系) スプリングスクールの実施および今年度の計画、JASSO 協定派遣・受入の計画、タイのマヒドン大学、インドネシアのボゴール農業大学とのダブルディグリー(2017.4~開始予定)【資料8】

以上